

女と男いきいきネット

ひとひと
女と男いきいきネットワーク久喜・通信第21号 2014, 6, 25 発行

総会
記念トーク



家族として暮らすセクシャルマイノリティを知っていますか
見えにくい隣人としてのマイノリティ

講師 小野 春さん
にじいろかぞく代表

今回の総会記念トークは、なかなかお話を聞く機会のないテーマだった。

冒頭に小野さんから「LGBT ってご存知ですか？」と質問されたが、正直詳しくはわかっていなかった。小野さんによると、性的マイノリティ（社会的少数者）を指す言葉で、レズビアン（女性同性愛者）のL、ゲイ（男性同性愛者）のG、バイセクシュアル（両性愛者）のB、トランスジェンダー（心と体の性の不一致）のTをとった総称であるという。

このLGBTの人は人口の約5%で、左利きや血液型A B型の人と同じぐらいの割合

合だという。日本でも、約六八〇万人が推定され、自ら公言し社会に発言する人も徐々に増えているとのことだ。

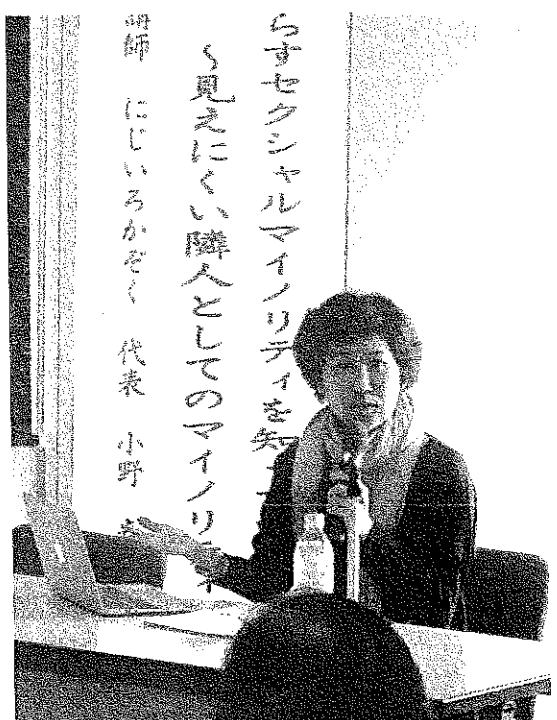
小野さん自身、パートナーは女性で、二人とも以前は男性と結婚、子どももいるが、それぞれ子ども三人とパートナーと計五人の家族（スリープファミリー^①）という形態になって一〇年になるという。

現在、同性結婚を認めた国は約二〇カ国

にのほり、今年の四月一五日にはインドで「第三の性」（トランスジェンダー）を法的に認める最高裁の判決が出された。が、日本ではまだ法律的に同性婚は認められていないため、小野さんの家族はシン

らすセクシャルマイノリティを知っていますか
見えにくい隣人としてのマイノリティ

講師 小野 春さん
にじいろかぞく代表



グルマザーがそれぞれの子どもを抱えての同居という形にしかならないとのことだ。そのため、社会的保障(例えば、親権が認められない、社会保険・健康保険が別、税は二重にかかる、医療機関等での親族扱いがされない、相続問題等々)がなく、いざという時のセーフティネットがないのが不安であるという。

また、日本ではまだまだセクシャルマイノリティに対する理解が進んでいないため、どう思われるか不安で、一部の人にしか二人の関係は話していないとのこと。親や学校の先生、とりわけわが子に「カミングアウト②」するときが一番悩むという。

小野さんも、子どもに言うか言わないか、かなり悩んだ。が、子どもには正直に向き合いたいと思いい、子どもが思春期に入ったときカミングアウトした。その時の子どもの第一声が「女同士は結婚できないよ」という言葉だった。元々

「母ちゃんが二人いる」ぐらいにしか思っていないで、実感が湧かなかったようだ、と小野さんは話す。

子どもがいじめられるのが心配で、学校には「親戚の人と暮らしている」と届けていた。が、子どもが大きくなり子どもにカミングアウトしたことをきっかけに、「にじいろかぞく③」を立ち上げた。 「にじいろかぞく」は、子育てをしたい LGBT のための自助グループで、活動の本柱は①当事者同士の交流を図る、② LGBT コミュニティ内部への啓蒙、③ 学校や公の場などで家族を持つ LGBT について伝えていく、ことである。

「世の中にはいろんな人がいて、いろんな家族の形があるのに、特にセクシユアル・マインオリティー(性的少数者)の家族は、まるで社会にいないかのようになっている」。小野さんは疑問を投げかけた。二〇一二年五月の米国大統領

領就任演説で、オバマ大統領は「わたしたちの旅は、ゲイの兄弟たち、そしてレズビアンの姉妹たちが他のあらゆる人と平等に扱われるようになるまで、決して完全なものとなるのです。というのは、もし人間が真に平等に創られているのなら、互いに誓い合う愛も、必ず平等でなければならぬからです。」と発言した。

この公言は、世界における同性婚問題への関心を大きく高め、これまで歴史の解放、すなわち、黒人解放、女性解放に次ぐ三番目の解放に並ぶとも言われている。

日本では、

<http://queerfamily.jimdo.com/>

カミングアウトしたタレントがテレビで活躍する一方、まだまだ受け入れられにくい文化の側面もあるが、自分の家族・友人・隣人がそうであったなら、決して他人ごとではない。

誰もがその人らしく、幸せに生きる権利を有している。いろんな性・家族の在り様を理解し認めるところから始めたい…。(進藤)

①「ステップファミリー」

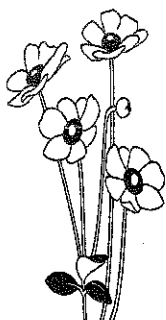
配偶者の少なくとも一方の結婚前の子どもと一緒に生活する家族形態

②「カミングアウト」

これまで公にしていなかった自らの出生や病状、性的指向等を表明すること

③「にじいろかぞく」

小野さんが管理人をしているサイト。LGBT ファミリーの交流会やさまざまなイベントも企画している。



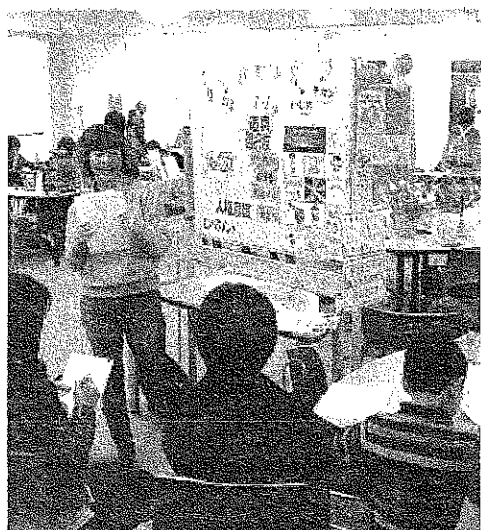
団体から

「安心・自信・自由」の権利

くきCAP 増田 知己

私たちのグループ「くきCAP (キャップ)」は二〇〇三年に「地域にCAPプログラムを届けたい」という思いで誕生しました。

「CAP」は、Child (子ども) Assault (暴力) Prevention (防止) の頭文字で「子どもへの暴力防止」という意味です。子どもたちがあらゆる暴力(いじめ・誘拐・性暴力など)から自分の



こころとからだを守るために何が出来るかを、寸劇(ロールプレイ)や話し合いを通じて、子ども達に伝えていく人権教育プログラムです。

子どもたちは誰もが「安心」「自信」「自由」の権利を持ち、それは、食べたり寝たりすることと同じように「生きていくためになくてはならない大切な権利」です。暴力はこの権利を侵し、子どもたちが生まれたときから持っている色々な素晴らしい力や可能性を奪うものです。

くきCAPは、暴力を許さない社会をつくるため、また、地域全体で子どもたちを支援していくため、いざというときに大人や子どもたちが、各々「できること」を伝えていきます。そして、学校・保育園・幼稚園などと、家庭・地域の三者が協力して、子どもたちの周りの環境を「安心」できるものにしていく手助けをしていきたい

と思っています。

その願いをこめて「信じる力を支える力に・安心して暮らせる地域づくり」を合言葉にして、ひとつひとつ丁寧なプログラムをこころがけていきます。小さなグループですがよろしく願いいたします。

「犯罪や非行のない明るい

社会」を築くために

久喜地区更生保護女性会

岡崎 より子

私たち更生保護女性会は、更生保護のなかで特に子育て支援に力を入れております。毎年、久喜地区内の小学校・中学校計十四校に愛の図書を贈呈して、それに對し一筆感想文をお願いしております。毎年開催される『まなびすと久喜』にそれを展示し、会場の中央公民館に二日間展示しております。六月は男女共同

推進月間で、『男と女のつどい』では久喜中央公民館でピデオ視聴してミニ集会を開き、お母さん方と実のあるお話で大変充実した時間を持っています。自分を振り返り、反省することもあります。

また、市民まつりでは、手作りの作品やパンなども販売しています。施設見学では、少年院や刑務所の研修も実施しており、つまずく前に親子の話し合いや立ち直り支援に、私たちにも相談してくれることを願っております。



地域社会のなかで、一人の社会人として迷惑をかけずに生きるよう、援助活動に励んでおります。

グルマザーがそれぞれの子どもを抱えての同居という形にしかならないとのことだ。そのため、社会的保障(例えば、親権が認められない、社会保険・健康保険が別、税は二重にかかる、医療機関等での親族扱いがされない、相続問題等々)がなく、いざという時のセーフティーネットがないのが不安であるという。

また、日本ではまだまだセクシャルマイノリティに対する理解が進んでいないため、どう思われるか不安で、一部の人にしか二人の関係は話していないとのこと。親や学校の先生、とりわけわが子に「カミングアウト^②」するときが一番悩むという。

小野さんも、子どもに言うか言わないか、かなり悩んだ。が、子どもには正直に向き合いたいと思い、子どもが思春期に入ったときカミングアウトした。その時の子どもへの第一声が「女同士は結婚できないよ」という言葉だった。元々

「母ちゃんが二人いる」ぐらいにしか思っていないで、実感が湧かなかったようだ、と小野さんは話す。

子どもがいじめられるのが心配で、学校には「親戚の人と暮らしている」と届けていた。が、子どもが大きくなり子どもにカミングアウトしたことをきっかけに、「にじいろかぞく^③」を立ち上げた。「にじいろかぞく」は、子育てをしたい LGBT のための自助グループで、活動の三本柱は①当事者同士の交流を図る、② LGBT コミュニティ内部への啓蒙、③ 学校や公の場などで家族を持つ LGBT について伝えていく、ことである。

「世の中にはいろんな人がいて、いろんな家族の形があるのに、特にセクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の家族は、まるで社会にいないかのようになっている」。小野さんは疑問を投げかけた。二〇一二年五月の米国大統領

領就任演説で、オバマ大統領は「わたしたちの旅は、ゲイの兄弟たち、そしてレズビアンの姉妹たちが他のあらゆる人と平等に扱われるようになって初めて完全なものとなるのです。というのは、もし人間が真に平等に創られているのなら、互いに誓い合う愛も、必ず平等でなければならぬからです。」と発言した。

この公言

は、世界における同性婚問題への関心を大きく高め、これまで歴史の解放、すなわち、黒人解放、女性解放に次ぐ三番目の解放に並ぶとも言われている。日本では、

<http://queerfamily.jimdo.com/>

カミングアウトしたタレントがテレビで活躍する一方、まだまだ受け入れられにくい文化の側面もあるが、自分の家族・友人・隣人がそうであったならば、決して他人ごとではない。誰もがその人らしく、幸せに生きる権利を有している。いろんな性・家族の在り様を理解し認めるところから始めたい。(進藤)

①「ステップファミリー」

配偶者の少なくとも一方の結婚前のどもと一緒に生活する家族形態

②「カミングアウト」

これまで公にしていなかった自らの出生や病状、性的指向等を表明すること

③「にじいろかぞく」

小野さんが管理人をしているサイト。LGBT ファミリーの交流会やさまざまなイベントも企画している。

